

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E142E012		近代文学史 (History of Modern Japanese Literature)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3	教育学部			氏名 藤原 耕作 E-mail fujiwarakosaku@oita-u.ac.jp 内線 7533										
授業の概要	学生が、明治以後の文学流派を年代順に一つ又は複数担当し、時代背景や流派の特徴について調べると共に、それを代表する文学作品の一つ取り上げ、調査・研究してきたことをレジュメにまとめ、発表する。それをもとに、全員で意見交換する。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 日本の近代文学史について、基礎的な知識を習得する。																
目標2 文学作品を調査・研究する技術を身につける。																
目標3 調査・研究したことを資料にまとめ発表する。																
目標4 発表をもとに意見交換する。																
目標5 意見交換をもとに、自分の意見をまとめる。																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 はじめに 今期の予定 発表の仕方 担当決め																
2 坪内逍遙「小説神髓」																
3 二葉亭四迷「浮雲」																
4 日清戦争後の文学																
5 日露戦争後の文学																
6 自然主義文学 田山花袋「蒲団」																
7 夏目漱石の文学																
8 森鷗外の文学																
9 白樺派の文学																
10 耽美派の文学																
11 新思潮派の文学																
12 新感覚派の文学																
13 プロレタリア文学 小林多喜二「蟹工船」																
14 戦時下の文学																
15 全体のまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	課題や研究発表の準備を通して、知識の定着・確認をはかる。				工夫 その他										
	B:意見の表現・交換	研究発表や意見交換を通して、意見の表現・交換をはかる。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	取り上げる作品を読み、疑問・感想・意見などを課題のプリントに記す。														
	学修	研究発表の準備をする。(30h)														
	事後学修	研究発表後の意見交換を受けて、作品を読み直し、疑問・感想・意見などを課題のプリントに記す。(15h)														
教科書	プリントを配付する。															
参考書	至文堂『日本文学史』・学燈社『日本文学全史』他															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題	70%														
	意見交換	10%														
	研究発表	10%														
	レポート	10%														
注意事項	なし															
備考	なし															
リンク																
	URL															